

法人全体のまとめ

令和3年度は、利用者やご家族の信頼を得るための各事業所における支援の充実と施設の維持・充実という経営的継続の二つの課題を基本目標として下記の具体的課題に取り組みました。

1 支援力の向上の取り組み

本郷に事業所があった放課後等デイサービス「げんき」が岩藤町上原に新施設を建設し、移転することになりました。施設環境が改善されることによる支援の更なる充実を期待することが出来ます。

イ) 法人の全体研修や外部研修は、ほとんどできませんでした。法人の全体研修では、ポレポレの常勤職員が準備を進め講師をするという企画を進めましたが、コロナウイルス感染拡大で中止となり、次年度の全体研修に持ち越すこととなりました。

ロ) 個人の支援力を高める全体研修と外部研修のほかに事業所の職員集団としての支援力を高める活動も着実に進みつつあります。

個々の特徴を生かしたサービスを試行錯誤をしながら提供し、利用者さんの個性を尊重しながら心の安定を重視していく実践が職員間で共有されればされるほど、利用者さんが力をつけ、生き生きと自己を発揮し、安定して休むことなく通う事業所になることを見ることが出来ました。

職員間の連携や共有の深さと連動している事業所としての支援力の向上と、個人の支援力を高める法人全体研修・外部研修の「個人と集団」の両面から支援力を見つめる必要があることが明確になってきました。

2 マニュアル作成委員会の活動

業務を遂行する上で必要な書類関係について、書き方を職員間で統一するため「マニュアル作成委員会」を作り、必要な書類の抽出、および書き方のマニュアル作成に取り組みました。今後、更に必要書類の抽出や、新人研修に利用し、日常の書類の整理に役立てるようにしていく予定です。

マニュアル作成委員会を一段落させたのち、来年度は、虐待防止委員会を立ち上げる予定となっています。

3 経営の安定と定員確保の取り組み

各事業所の1日の平均利用者数 昨年度比較

	ポレポレ ハウス	ハーモ ニー	げんき	多機能事業所		デイポレ	ホーム	わとと
				えがお	なかよし			
令和2年度	13.7	19.3	9	5.4	3.6	7	5.3	休業
令和3年度	17.4	17.8	11	6.8	4.2	5.4	5.3	

昨年より1日平均利用者数が増えている事業所が4事業所、減少している事業所が2事業所、同数が1事業所でした。

新しい利用者さんの受け入れは、大変な緊張感を伴うものです。職員の努力は大変なものです。来年度に向けて、すべての事業所が更にサービスの質を高め、職員集団の力を高めていくことに努力し、利用者のみなさんや保護者の方々の信頼をうることで、1年後、2年後の定員確保の実現を目指す必要があります。来年度の法人の大きな課題です。

4 職員の生活向上の取り組み

10月に最低賃金の引き上げがあり、それに伴い、パート・非常勤職員の時給を960円に引き上げました。

5 職員募集の取り組み

リクルートナビ新卒求人サイトに掲載し、令和4年4月より常勤職員1名を採用しました。

今後も、年間の中でタイミングを外すことなく、常に募集に力を注いでいく必要があります。

6 「父母提携」の取り組み

父母との連携した活動が進まない状況を変えようと「コミュニティーガーデン四季の里を実現する会」を発展的に解消し、「社会福祉法人ポレポレ後援会」づくりの模索が始まりました。

次年度に「後援会」が形になるように、父母への呼びかけや企画を進めていく必要があります。

7 NPO法人なかまの家との共催活動

「おもしろ体験子屋」が8月13日（土）「ひかりの人々展」が10月9（日）・10日（月・祝）に開催されることが決定。NPO法人なかまの家と社会福祉法人ポレポレが実行委員会をつくり現在催しの成功に向けて進行中です。

社会福祉法人ポレポレとしても意義の再確認をし、成功に向けて職員の協力を強めていく必要があります。

就労継続支援 B 型事業所 ポレポレハウス

利用者状況（定員 20名）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所 日数	22	18	22	23	19	21	21	22	20	16	19	23	246
延べ 利用者数	381	327	388	403	335	383	355	379	339	269	310	417	4286
1日 平均 利用者数	17.3	18.2	17.6	17.5	17.6	18.2	16.9	17.2	17.0	16.8	16.3	18.1	17.4

- ① 新規利用者 4月（3名） 5月（1名） 2月（1名） 3月（1名） 合計6名
- ② 退所者 10月（1名・一般企業に移行） 3月（1名 ハーモニーに移動）
- ③ 利用契約者数 3月末 （19名）

2（活動報告）

- ① 新しい利用者さんへの支援。
支援学校卒業生3人と事情があつて他の事業所から移ってこられた方3名の計6名の方のできる力を見るため、個々の良いところを見つめて、力を発揮させ、達成感とやりがいを持っていただく作業の提供を試行錯誤して提供をした 又 職員が臨機応変に援助しあい、連携と共有を深めながら支援に取り組むことが出来た。
- ② 6つの作業班に加えて販売活動のどの作業が適しているかを職員の連携で見つめていきました。
一人一人のやろうとする気持ちを見つつ職員間で支援の共有を日常的に大切にして取り組んだ
- ③ わかりやすく遂行できるように可視化することに努力した。
- ④ 新しい商品開発に取り組んだ
 - イ 惣菜と弁当 仕込み作業に取り組む
 - ロ とりごぼう飯 ゴボウのさがき、調味料の計量・炒める・肉の仕込みなどが作業
 - ハ オートミールクッキー
 - ニ 工房作品 一人3つの作業ができることを目指してサービス提供に努力
- ⑤ 給食を開始
10月より週3日（水・木・金）、管理栄養士の資格を持つ職員の作る給食を提供する。
- ⑥ 販売活動
訪問販売・注文販売・移動販売・定点販売の販売方法で販売
販売先 50か所 （コロナ前58か所）
移動販売 三ヶ峯団地・三本木ニュータウン・五色園団地・東山団地（マイクを流し行

う)
販売車 3台 (前年度2台)

⑦ 売り上げ額

イ 月額売り上げ状況

令和3年4月 659,230円
令和4年3月 981,016円

ロ 年間売り上げ額 (前年比)

	令和3年度	昨年度(令和2年度)	前年比
販売収益	9,043,577円	7,949,022円	113.7%

ハ 支出内訳 (前年比)

	令和3年度	昨年度(令和2年度)	
工賃	3,634,540円	3,301,080円	110%
材料費	3,491,609円	2,550,034円	137%
経費	583,967円	526,802円	111%
合計	7,710,116円	6,377,616円	120%

⑧ 工賃 月額平均 16,343円

ポレポレハウス 令和3年度平均額(月額)	就労継続支援B型 令和3年度全国平均額(月額)
16,343円	15,776円

- ⑨ 働きやすい職場を作るために、休憩が取れる体制と残業を減らすことに取り組んだ。
⑩ 業務が時間に追われる内容であることから、職員のゆとりをつくるために各作業班の職員体制が複数になるように職員配置を改善した。
⑪ コロナウイルス感染者が出て、感染拡大を防ぐため事業所を閉鎖した。
閉鎖期間 1月25日(火)～28日(土) と 2月2日(水)

3 (成果)

- ① 6つの作業班に加え販売活動という両輪の活動と食品に従事することが出来ない方のための工房班があることで、一人の利用者さんが3つの仕事をこなしていく状況も生まれた。自分に合った仕事を選び、やることが明確になっていることによって心の安定が見られ、利用者さんが穏やかに過ごすことが出来るようになっていく。
② この1年、試行錯誤のサービス提供を職員の連携と共有で努力した中で、利用者さんの安定を見た時、事業所の支援力の基礎となるものは何かを学ぶことが出来た。
③ 販売活動では、街の方とのつながりを感じる場面も多く、障害者理解を広げる活動となっている。

- ④ 惣菜班が立ち上がったことにより、仕込み作業が増え、利用者さんの力を新たに見ることができた。
- ⑤ 移動販売が高齢の方の住む団地で定着し始めた。

4 (課 題)

- ① 移動販売で、地域の方やお客様に失礼のない対応に改善する必要がある。
- ② 惣菜班・焼きそば班・みたらし班の作業班に午前中の職員配置が出来ていないため、外注の注文数を増やしていくことが困難。
- ③ 個別支援で、特に精神障害を持つ方の支援を深めていく必要がある。
- ④ 今年度の支援を深く見つめ、事業所の集团的支援力を高めて、そこから学び、新しい利用者さんを受け入れる力を更に高める。
- ⑤ 公平な工賃のあり方を見つめ、工賃規定の見直しと皆が納得のいく工賃の改善に努力する。
- ⑥ 現在の利用者の皆さんの支援環境を更によくするために多機能型事業所の方向を模索する必要がある。

生活介護事業所 ハーモニー

1. 利用者状況 (定員 20 名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所日数	22	18	22	23	19	22	21	22	20	20	19	19	20.5
延利用者数	447	362	442	420	354	383	369	376	359	303	266	352	4433
1日平均利用者数	20.3	20.1	20.0	18.2	18.6	17.4	17.5	17.0	17.9	15.1	14	18.5	17.8

【1日平均利用者数】 17.8人

- ・ 1名入所。4名退所。
- ・ 1月入院2名。2月入院1名。
- ・ 令和4年3月31日 現在 登録者数 19名。
- ・ 令和4年4月1日 現在 登録者数 21名。

【障害別人数】

障害種別	精神障害	知的障害 (自閉症含む)	身体障害	(若年性認知症)	合計
利用者数 (人)	1	18	1	1	21

2. 活動報告

①新型コロナウイルス感染症 陽性者

- ・利用者 2 名

- ・職員 2 名

※ 1 日休業し、職員 6 名で 施設内徹底消毒

※ 現在も送迎時検温・手指消毒を行い、ご家族の健康状況も確認させてもらっている。

②健康づくり

- ・ラジオ体操後、毎日 30 分の散歩。コロナ禍の気分転換を込めて活動に組み入れたが、少しお腹周りがスリムになった方もおり、田園風景の中をそれぞれが楽しんで散歩に出かけている。また地域の方も、「おはよう」と声をかけてくださったり、畑のお花を摘んで持たせてくださったりすることも増え、少しずつ地域の方との交流もできている。

③喫茶再オープン

- ・10 月より、水曜・木曜・金曜と週 3 日喫茶を再開した。コロナ禍ではあるが、地域に向けて、看板を作り、喫茶メニューやお知らせなどを掲示するようにし PR をした。

④法人内交流

- ・ハーモニーの畑で出来たサツマイモを使って焼き芋大会をし、放課後等デイサービスの各事業所に呼びかけ四季の里に遊びに来てもらい、シャボン玉を楽しんだ。
- ・ポレポレの成人式に利用者も参加。ポレポレハウスの MK さんを祝う。

⑤授産製品の販売

- ・各班でブランドを立ち上げ丁寧な商品づくりに取り組んだ。
- ・ハーモニーの商品カタログを作り、法人内の事業所に協力を得て配布、購入のお願いをした。
- ・授産製品の販売拡充を計画、ネット販売に取り組む。

3. 成果

①公益財団法人 J K A の補助金申請が受託決定し、7 月に廃車となるキャラバンの代わりに 7 人乗りのノアを購入する運びとなる。8 月に納車予定。

②各班で新製品を開発。

③ P C 班をステップアップ班に位置付け、喫茶での作業に取り組み始めた。

④毎日のラジオ体操と散歩。コロナ禍においても利用者と職員の健康維持。気分転換で、作業時間は集中して作業に取り組んでいる。

4. 見えてきた課題

①室内作業が主であるため、運動不足になりがち。散歩も取り入れているが、夏は時期的に屋外活動が制限されるため、プログラムの工夫が必要となってくる。コロナ禍でも影響を受けにくい活動場所を獲得したい。

②四季の里の垣根が朽ちてきて大変危険。フェンスを整備して、利用者に安全な空間を提供した

- い。赤い羽根共同募金の補助金申請が受託されなくても、今年度中に整備したい。
- ③ハーモニーの建物も6年目を迎えた。施設内もところどころ修繕を行なっている。外壁も西側はかなり色落ちしてきている。車寄せについても、早めにメンテナンスすることで経費削減を図りたい。できれば、保護者と共に共同作業で施設を整備することを考えたい。
- ④『四季の里』でみんな（地域）とつながる楽しい企画をたて、積極的に地域交流を図る。
- ⑤職員の支援力をアップし、利用者を獲得する。

共同生活援助事業所 なしの木ホーム

1.利用者状況 定員6名

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所日数	26	26	26	27	26	26	26	26	24	24	24	27	308
延利用者数	147	143	154	150	144	146	143	155	128	101	107	135	1653
平均(人)	5.6	5.5	5.9	5.5	5.5	5.6	5.5	5.9	5.3	4.2	4.4	5.0	5.3

※1月は1名入院。退院と同時に退所。念願の自宅生活をする。

※12月・1月・2月はコロナの影響あり。

2. 活動報告

今年度「なしの木ホームの役割は何か」「なしの木ホームでどこまで支援できるのか、ホームでの支援の限界とガイドライン」を明確にし、そのうえで、ご家庭や相談支援センターとも連携をし、一人ひとりのライフステージを見つめながら、個々の自立生活への支援をさらに含めていくことを基本方針に据え、活動を行ってきました。

なしの木ホームでは、入居者それぞれが、自分のできる力を発揮し、自分らしく豊かに暮らすことを目標としながら6名が共同生活をしてきましたが、令和4年1月、1名の方が、ご自宅で生活をするという道を選択され退所されました。

3. 成果

- ・入居者、それぞれが主体的に生活できるようになってきている。
- ・できないこと、困ったことなどがあると、自ら発信し、支援員や同居者に助けを求めることができている。
- ・日常的に健康観察（検温・血圧測定等）を行ない、食事についても健康食を意識して提供しているため、コロナ禍においても比較的健康で過ごすことができている。
- ・入居者の定期通院等は、保護者に委ねているが、保護者がご高齢の入居者については、国際病院の医療連携室のドクターに訪問診療をしてもらっており、月2回の健康相談を実施している。
- ・少しずつではあるが、ホーム周辺のスーパーや衣料店、コンビニへ出向いて買い物に行くこ

とができるようになってきている。

4. 見えてきた課題

- ・入居者一人ひとりの「自立生活」を目標に支援を行ってきたが、6人とはいえ、一人ひとりの障害特性をふまえて支援していくことの難しさを感じている。特に、自身の言語による意思表示が難しい方の場合どこからどこまで支援が必要なのか考えさせられる。また、言語でコミュニケーションが取れる方についても発信された言語にとらわれ過ぎてしまい、真意がくみ取れないことが、問題事象になってしまうこともあった。
なしの木ホームは、現在14名の職員で支援を行なっているが、時間帯によっては一人仕事になっているため、情報共有を徹底し、連携を強化して、職員のスキルアップを図ることが必要と考える。
- ・今年度、浄化槽の修繕や各部屋の建てつけ、外壁の修繕など細かいところで修理を必要とすることが出てきている。来年度、5年目に入るにあたり、外壁の補修（ペンキ塗り）等、メンテナンスの必要性も感じられる。計画性をもって取り組んでいきたい。保護者とも交流会をする中で、相談させてもらう。

短期入所事業所 チャレンジホーム

1. 利用者状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
延利用日数	0	0	4	4	4	6	10	12	8	0	0	2	50
延べ利用者数	0	0	2	2	2	3	5	6	4	0	0	1	25

- ・1日 定員1名で、グループホームと同時に事業所は認可されている。
- ・毎月1日に利用希望者1名あり。
- ・緊急時利用というよりは、訓練目的の利用が多い。
- ・法人の日中活動をご利用の方に利用して頂いています。

2. 活動報告

今は困難でも将来の自立を目指して少しずつ親から離れて暮らす体験をしたいというニーズに応えるために、短期入所事業をグループホームで行っています。日中活動を共に過ごしている仲間が家のようなところで、当たり前な生活（ご飯を食べたり、お風呂に入ったり、寝たり）をしているんだということを自然な形で、利用する人に見てもらえたらと思っています。

ご家族でご本人様とお話をされて事前予約でご利用になっています。

3. 成果

現在は、1泊利用をされる方がほとんど。1回利用されて、「こんなところか」と感じがつかめ

ると2回目からは、自然体（自分のペース）で過ごされておられます。ご利用を重ねるたびに、チャレンジホームにも慣れ、個室で過ごしていても「ごはんにしましょう」の声掛けで、自ら食堂に来れたり、トイレにも行くことができおられます。基本ご自宅で出来ておられることは、ホームにおいてもできていると考えられます。

チャレンジホームが「何をするとところか」わかってしまえば、2度目からは、躊躇なく過ごすことができると思います。

4. 見えてきた課題

基本は、「家でないところで寝泊まりする体験」です。体験をしていただいて「できていること」「今後注視した方がいいこと」などをお伝えしています。ご自宅で過ごされるときの参考になればと思っています。

ご家族に「できないことをできるようにする施設」ではなく、あくまで体験施設であることをしっかりお伝えしていきます。ご家族で何のために「チャレンジホームに行くのか」ご本人様とお話をされて納得の上ご利用をしていただくことが原則です。ご家族様の思いが強すぎて、ご本人様が納得しないままご利用になる場合、ご本人様に負荷がかかり、体験自体が有益にならない場合があります。

今年度、kさんが月に1回から4回。ご家族様の意向でチャレンジホームをご利用になっていたのですが、なんで週に1回、チャレンジホームに行かなければならないのかわからないまま利用を繰り返すうち、チャレンジホームに行く前夜と帰ってきた日の自宅での荒れ様がひどくなっていきました。ホームでは、少し緊張しているようではありましたが、問題のあるようなことは一切なく、スタッフや居住者とはうまくやっておられました。ご本人の行きたくない発信だったと思われるのですが、それでも、ご家族様は、ドクターと相談の上、チャレンジホームご利用の前夜と後夜に安定剤を服用させてチャレンジホームをご利用し続けました。

結果、kさんは、日中活動の場でも顔色が優れなくなり、日中活動も休みがちになりました。

「お母さんと離れたくない」という気持ちが強まり、日中活動に来れなくなっています。

チャレンジホームを利用する事前準備が必要だと感じた事例です。

地域生活支援センター わとと

1. 営業について

今年度、コロナ禍において、営業を休止した。

2. 今後の課題

障害を持っている方への日常的な日中活動の保障という点においては、活動の必要性はあるが、情勢的にまだまだ感染状況が収束されていない状況であるため、様子を見ての再開となる。

児童発達支援事業所 なかよし

(定員4名)

1. 利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
延べ利用人数	41	35	52	29	0	47	39	47	54	45	51	71	511
開所日数	10	10	13	7	0	13	12	11	10	10	9	14	119
1日平均利用人数	4	3.5	4	4	0	3.6	3	4	5	4.5	5.6	5	4.2

【利用者状況】

今年度は4月スタートから利用者が単独、母子共に3月から継続で利用があったので大きく減少することなくスタートできた。

利用者が退所すると同時に待機児童への声掛け、見学者の受け入れで利用者人数の変動なく受け入れができています。

5月、9月は体調を崩し休む利用者や幼稚園、保育園行事での欠席が多かった。

10月以降、利用人数も安定し、火曜、水曜、木曜定員数4名の登録になった。

コロナウイルス感染症の為、2月、3月の見学者がなかった。

【職員体制】

8h常勤パート1名

保育士 2名 (週2)

幼稚園教諭 1名 (週1)

指導員 1名 (週2)

2. 活動報告

主担任を配置して取り組んでいることで、療育内容が安定し提供できている。

集団を意識した活動内容を会議や朝のミーティングで話し合うことが出来ている。

四季折々の活動を行い、工作や活動に盛り込んでいった。また、支援員と子どもが触れ合って遊ぶふれ合い遊びを多く取り入れ、家庭でも出来る遊びを伝えてきた。

コロナ禍で幼稚園、保育園訪問が出来ていないが、相談支援センターとは連絡を取り合い、連携を取っている。

6月 金曜の母子対象にお茶会を開催。

7月 保護者面談を実施した。

9月 遠足を実施。単独保育でモリコロパーク 母子保育で鞍ヶ池公園

12月 社会福祉協議会のサンタボランティアの方サンタクロースをお願いし、クリスマス会を行うことができた。

3月 年長さんやなかよしを卒業する利用者のお別れ会をする。

1年間の成長アルバムを制作する。

3. 成果

昨年に引き続き中心になる職員を配置したことで、療育の内容を安定して提供できている。利用者の利用状況が変動なく利用がある。

コロナ禍ではあるが、感染予防をしっかりと行い休業することなく営業できた。保護者との情報共有や相談など気軽に受けることが出来ている。

4. 今後の課題

- ・職員確保をしていく。(開所できる日数を増やせない)
- ・開所日数を週3～4日にしていく。
- ・療育教材の充実、整理整頓。
- ・保護者との懇談会や茶話会を増やしていく。
- ・他事業所との交流会をしていく。

放課後等デイサービス事業所 げんき

(定員 10 名)

1. 利用者状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所日数	22	19	22	22	19	21	21	22	20	19	19	23	249
延利用者数	233	197	251	233	220	241	243	233	215	222	210	247	2745
1日平均数	10.5	10.3	11	10.5	11.5	1.1	11	10.5	10.7	11.6	11	10.7	11

【新規利用者】

新一年生 3名 三好特別支援学校 1名、瀬戸つばき支援学校 1名、市内 1名
二年生 1名 瀬戸つばき支援学校

【登録人数】 22名

(学年内訳) 中学生 3年 1名、中学生 1年 3名
小学生 6年生 1名、5年生 2名、4年生 4名、3年生 3名、
2年生 5名、1年生 3名

(市内内訳) 日進市：12名 みよし市：2名 長久手市：6名 東郷町：1名
豊田市：1名

※新規1年生が3名入る。2名が週5日。1名が週3日。

※新規2年生が1名9月から利用。週3日。

※平均利用人数は11名。曜日によっては14名受け入れることもあった。

※家庭の事情で1月から利用日数が増えた利用者が1名あった。

2. 活動報告

- ・9月中旬に利用者がコロナに感染したと保護者から連絡があり、連絡が入った当日休業する。保健所と連絡を取り「げんき」は濃厚接触者にはあたらないと報告を受けたので翌日から営業する。その後、職員、利用者から感染の報告無かった。
- ・新型コロナウイルス感染拡大防止の対策（定期的な換気、手洗いうがいの徹底、備品等の消毒など）を活動中も意識し徹底して行った。
- ・郊外活動を行えないため、室内での遊びを工夫し充実させた。
- ・今年度は低学年が多いため週活動の内容を低学年に合わせた内容に変更して行った。
- ・夏休み、昨年度は感染予防の為に中止にしていた、園庭でのプールを実施した。
- ・緊急事態宣言が明けたタイミングで買い物体験を実施。
- ・6月、7月に保護者面談を実施する。
- ・11月、12月コロナウイルス感染による休校やご家族が感染や濃厚接触者になったことにより休みやキャンセルする利用者が増えた。
- ・クリスマス会をげんきで行い、ハウスの職員にサンタクロースを依頼し協力してもらい楽しく行うことができた。

(3) 職員体制

- ・常勤職員が3月に退職し、補充がないが8時間常勤パートを2名置くことで夏休み対応が出来た。3年以上勤務してくれているパート2名。男性パートが週2日で1名配置した。10人に対し5名の職員で対応するが、学校お迎えに人員がいるため、えがお、デイサービスポレポレの職員とも連携し協力してもらっている。
- ・週3日出勤していたパート職員が家庭の事情で出勤日数が減ってしまったが児童発達支援事業所なかよしの保育士のパート職員にヘルプをお願いし乗り切ることができた。

3. 成果

- ・新一年生は、すぐに環境に慣れ落ち着いて過ごせている。
- ・週の活動が安定し提供することで利用者が理解し活動に落ち着いて参加出ている。
- ・業務分担を明確にし振り分けることで業務がスムーズに行えている。
- ・相談支援センターと連携を取ることで利用者確保が出来た。
- ・岩藤町上原に新施設の建設計画が進み、来年度に移転することが決まった。
- ・安定した支援をすることができたので、利用者の利用も安定し来年度の利用も見込みができた。

4. 見えてきた課題

- ・公用車を1台配車し、他事業所の公用車を借りている為、今後、どうするか検討していく必要がある。
- ・新施設に移動した時の職員の動き方や利用者の動きや施設の使い方を話し合い検討していく。

- ・個々の支援の共通理解を深めていく為の研修が必要。
- ・保護者に対しての協力体制の形作りをしていく。

げんき新施設について

- ・7月31日に入札を行い、7月31日の理事会にて稲吉建設に決定する。
- ・3月10日、11日、12日岩藤町上原の新施設の内覧会を行えた。100人ほど見に来ていただきました。
- ・県の申請書類は6月1日開所に向けて申請中です。

放課後等デイサービス事業所 えがお

(定員6名)

1. 利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	小計
開所 日数	22	18	22	21	19	22	21	22	20	19	19	23	249 (コロナ対応により 2日休業)
延利用者数	130	104	140	149	124	147	155	153	156	129	141	168	1696
1日平均 利用者数	5.9	5.8	6.4	7.1	6.5	6.7	7.4	7.0	7.8	6.8	7.4	7.3	6.8

【新規利用者】

4月にげんきから中学1年生4名、新規利用で中学1年生1名、10月からは中学3年生1名が加入

(7月と10月にデイポレから女兒2名が移籍。)

【登録者数】 19名

(学年内訳) 高校2年：2名、1年：1名、中学3年：7名、2年：3名、1年：6名、

(市内内訳) 日進市：14名、みよし市：4名、豊田市：1名

2. 活動報告

コロナウイルス感染予防対策

毎日の消毒、検温など法人のマニュアルに沿って予防を行ってきた。また、利用者へは手洗い、消毒の習慣化、マスクを正しく身につけられるように練習を繰り返してきた。クッキングや買い物体験などの活動も地域の感染状況を確認し、感染予防を行いながら活動を行ってきた。

曜日ごとの主活動

《月曜日》

買い物とクッキングを隔週で行った。前週にクッキングの食材を購入し翌週に作るという流れで行ってきた。メニューも子どもたちに2つから選択をしてもらうようにした。

《火曜日》

製作とアイロンビーズを行った。製作は季節に応じた作品を作るなど、ハサミやのりなどの道具を使う経験を多く取り入れた。アイロンビーズは、子どもたちの好きなキャラクターの作品づくりを行った。

《水曜日》

音楽活動では主に歌を歌ったり、音楽に合わせて楽器を鳴らすリズム遊びを行った。そのほかに、「アブラハム」や「ホーキーポーキ」などの身体を動かしながら歌を歌って過ごした。

《木曜日》

隔週でクッキングと総合運動公園でのウォーキングを行った。クッキングは、手順書を用いて、子どもたちに活動の見通しを持ってもらい落ち着いて取り組めるようにした。

ウォーキングでは、総合運動公園のウォーキングコース(1週700m)を2周を目標に歩いてきた。

《金曜日》

主に運動を行った。運動では、体操や、ボッチャなどを行い身体を動かす活動を行ってきた。

《その他》

お手伝い

子どもたちに役割を与え、お手伝いをしてもらうことを前年度に引き続き行った。障害の程度に関わらず、自分の役割だと認識した子どもたちが自発的に役割をしている姿が見られた。

3. 成果

- ・今年度もコロナウイルスの影響により、分散登校や臨時休校があり、見通しを持ちづらい状況ではあったが、ほとんどの利用者が安定をして利用を出来ていた。
- ・げんきから移籍した利用者以外にも新規の利用者が2名増えた。これらは、保護者間の口コミなどで紹介をして貰えたケースだった。

車両の購入

課題であった車両の確保は、日本財団の福祉車両助成申請が通り、3月に新車を購入することが出来た。

4. 見えてきた課題

男性職員の確保

中学生という年齢もあり、身体が大きくなった利用者を女性スタッフだけで介助を行うことに限界があるため、男性スタッフを常時2名は配置していきたい。

支援の質の向上

日々の支援の振り返りや会議の時間を使った情報共有や外部での研修に参加をすることで質の向上を目指していきたい。特に、外部での研修にはコロナウイルスの影響もあり参加が少なくなっている。

放課後等デイサービス事業所 デイサービスポレポレ

(定員 10名)

1. 利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所 日数	22	18	22	21	19	22	21	22	20	19 (1)	19 (1)	23	248 (2)
延利用 者数	129	88	124	109	92	114	116	135	115	110	93	118	1343
1日平均利 用者数	5.8	4.9	5.6	5.2	4.8	5.2	5.5	6.1	5.8	5.8	4.9	5.1	5.4

※ カッコ内 新型コロナウイルス対応による休業日数

【登録人数】15名

【新規利用者】4月から4名（えがおから移籍）、4月から1名

【利用の中止】2名（えがおを利用）

2. 活動報告

新型コロナウイルス感染対策

上半期に引き続き、市中では新型コロナウイルス感染拡大の状況が続いており、事業所内でも手洗いや消毒、検温等感染対策を徹底し、室内での活動が中心となった。1月以降は特に感染者が増え、3月に予定していた障害者スポーツセンターでのプールは中止、卒業生のお祝いについても外出のイベントは中止し、室内で行うこととなった。

利用者やご家族、学校など関係の場所で感染者が出ており、学級閉鎖等もあって欠席となることが多くあった。また、事業所の関係者やその周囲でも発熱等体調不良があると、支援員が欠勤し事業を運営することが難しくなる日もあった。

長期休みの活動

夏期は夏休み後分散登校があり、年度末は卒業生の春休みが1か月近くあった。卒業生は6人おり利用日数も多く、休校日に午前中から長い時間の活動となる日が多くあった。ドライブや散歩に出かけたり、ゆっくり室内で活動したり、利用者一人でバスに乗り通所する練習をするなど、個々の利用者の状況に合わせて支援を行った。

3. 成果

新型コロナウイルス感染拡大の状況下ではあったが、多くの利用者は安定して利用を続けることができた。個々の利用者に合わせて支援を行い、6人の卒業生を無事に贈り出すことができた。

4. 見えてきた課題

法人内事業所との連携

今年度は卒業生が6人いたが、いずれも卒業後は法人内の事業所（就労継続支援B型事業所ポレ

ポレハウス、生活介護事業所ハーモニー)の利用には繋がらなかった。これは事業所の利用定員の状況や卒業生の特性の関係もあったためだが、法人内での利用に繋げていくために、作業体験や見学を継続的に実施していくなど連携を積極的に行っていく、利用者を法人全体で見っていく体制を整えていく。

支援員の体制不足

新型コロナウイルス対策での欠勤や、長期休みが長くなったことなどもあり、支援体制が不十分になる日が多くあった。支援員は限られた人員のなか毎日出勤している人も多く、欠勤した場合の補充が常に難しい状況であった。また女性の支援員が少なく、女性利用者の対応が限られていたため、女性支援員の増員が求められる。

定員人数の確保

今年度は年間を通して10名の定員を大きく下回る状況が続いた。現利用者の状況から、見学後利用を見合わせる人や、「えがお」から移行後に再び「えがお」へ戻ってしまった利用者もあり、定員の確保が難しい状況であった。来年度は卒業生が多く、「えがお」から移行予定の利用者も多い。大きく利用者の層が変わるので、定員の確保につなげていきたい。

事業所施設建物の契約年数

現在事業所として使用している建物は借家であり、家主との契約が残り4年となっている。契約を延長できるかは不明な状況であり、別の建物を探していくのか、事業所として今後どのようにしていくかを検討していく必要がある。